

(1) 単元名： 場合を順序よく整理して

(2) 本時の目標： 仲間に分けて計算しよう (啓林館)

子ども達にとっての教室の価値ってなんだろう？右の写真、ゆったりくつろいで本を読んでいる子が3名、おしゃべり2名、仲間とゲーム4名。それぞれがほんとにゆったりくつろいでいる感がある。

各々の子どもに、それぞれの「くつろぎ」方があり、誰にも邪魔されず安心できる空間になっている。生徒指導の話の中でしばしば「子どもの居場所づくり」が話題や課題にあげられる。この教室の子ども達にとっては、やはり教室が一番居心地のいい場所になっているのではないだろうか。つまり安心して一番くつろげる場所としての価値があるのではないだろうか。単に教室を、知識伝達の場所、協同活動や集団生活の規律を学ぶ場としての価値や意味づけに終止せず、子ども達にとって一番「安心してくつろげる空間」としての教室でありたい。



【整然とした学びの教室】 いつ行っても「きれい」
『静然とした学びは整然とした教室でしか生まれない』

あたらぬ。すてきである。右写真が見
渾身の新聞である。同じが見
ら一生懸命になれる。右写真
アが見える。大切にされるか
作品に、各々の個性やアイデ
掲示物が「きれい」、習字や



【授業開始】 本日の授業は、私の学校が音楽発表会の振替休日で、T先生と日程を調整し、日常の授業を参

観させてもらった。左写真の2つの問題が今日の課題。

写真①、T先生の授業スタイルである。この字の中央の空間を上手に使っている。ここで、みんなで問題を確認する。

写真②、それぞれグループにもどってやるように指示する。まずは、個人とテキストとの対話である。「分かる」を見つける。「分からない」を見つける。ほとんどの解答への筋道を考える。

- ・「こんなしたらできそう」
- ・「ぼくはこれでやる」

日常の自分の言葉でブツブツ、ボソボソ言葉が交わされる。図を書いて考えるが基本であるがなぜか自分のスタンスでやりたがる子ども達である。

写真③、この教室の「きき合う」はとにかくすばらしい。訊く側は遠慮なく、訊かれた側も絶対に仲間を置き去りにしない一人残らずにこだわった「学び合う教室」の確立である。

なかにまにまに

1 子ども会で、みかんとバナナを配ります。ほしい人に手をあげてもらったら、みかんに手をあげた人は18人、バナナに手をあげた人は20人で、そのうち両方に手をあげた人は11人でした。下のようきめて配ると、みかんは何個、バナナは何本用意すればよいですか。

両方に手をあげた人……みかん1個、バナナ1本
みかんだけに手をあげた人…みかん2個
バナナだけに手をあげた人…バナナ2本

下のようき、図をかいて考えましょう。

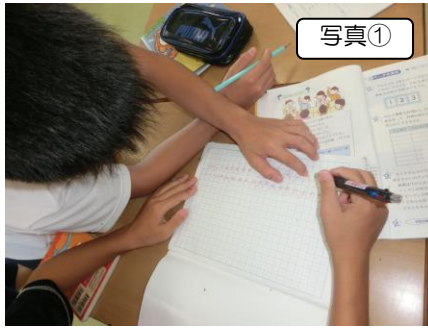
みかん18人、バナナ20人
両方11人

2 子ども会で、人形劇と映画を見に行きます。参加を申しこんだ人は全部で86人で、そのうち人形劇は58人、映画は63人でした。両方に行く人には300円、一方だけに行く人には200円を、子ども会から出すことになりました。子ども会が出すおかねは、全部で何円になりますか。



[問題①をやる]

写真①、図や式での理解が難しい仲間がいる。一緒に寄り添って手伝うさらなる仲間がいる。仲間の「分からない」の追求に懸命に寄り添う。恩着せがましい空気や手伝ってもらう側に躊躇する雰囲気は全く感じられない。誰かが困ったら仲間が支える。当たり前前の教室である。



写真①



写真②

写真②、隣のグループに「どうだった?」「なんで~?」確かめに行く仲間である。一方的に言い合うのではなく「互いの考えを聴き合う」。この教室の一番素敵なのは、「分からない」仲間には徹底的に寄り添うがすでに習慣化していることである。必ず誰かが助けに来てくれる「安心」して「間違える」ことのできる教室である。この教室の空気を作り出している教師と子ども達の関係性に圧巻である。

[問題①を共有する] 黒板に各グループの代表者の解が記される。DTVでノートを投影する。



問題①の解答例の共有である。左写真、なぜか腑に落ちない仲間がブツブツ、ポソポソである。中央写真、3グループの代表が説明する。→途中から新たな仲間にも説明が引き継がれる。右写真、仲間の発言に向けられる支える仲間の「眼差し」である。しっかり聴いてあげる。聴く必要があるから視線が熱くなる。

[問題②をやる] 題意にも、数字にも問題①より負荷がかかる。



[ケアする] 答えに導くこと、ヒントを与えることではない。この子の困り感を周りの仲間に繋いであげる。聴いてあげるだけでも「安心」する。



まずは、黙々と各々でテキストとの対話である。教師からの指示や確認は一切なし。みんなが自分たちの手で解答にたどりつきたい。やがて、「学び合い(きき合い、支え合い)」が加速する。

仲間と色々な考えをすり合わせる。身を寄せ合い互いの言葉に心が重なる。わたしの「なぜ?」が解かれる。

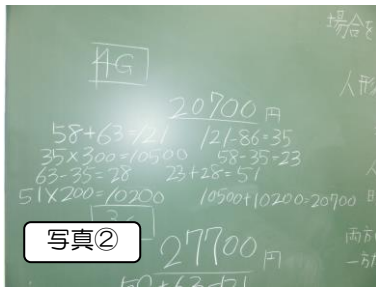
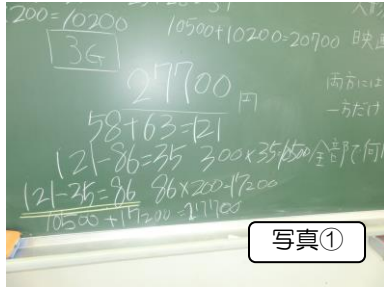
[気になる子] 子どもにも、色々な家庭や家族の状況があり、色々な育ちの経験を積んでいる。「ナイーブで遠慮がち」な男の子とは、どこの学校のどんな教室にでもいる普通の小学生である。しかし、仲間と一緒にいるので、ニヒリズムやシニシズムといった「学びからの逃避」は見られない。タイミングやきっかけを気にしながらじっくり「訊く」のチャンスをうかがっている。授業後半にグループの仲間から手厚い「支える」を頂くことになる。

[学びのネタ]

一人の女の子が、みんなとは違う自分の解を遠慮なく黒板に記す。「この子の間違いがなぜ起こったか?」みんなと違って知っていることを知りながら堂々と出せることが素晴らしい。最高の学びのネタである



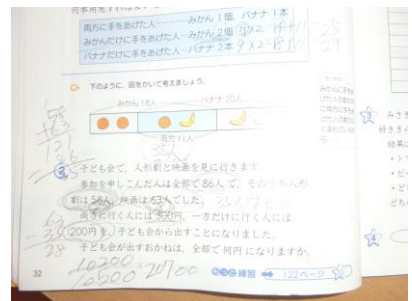
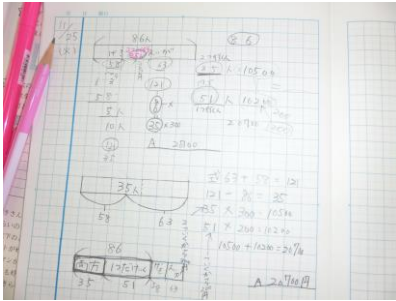
[違いを学ぶ。違いから学ぶ] → 間違いにも私の「理」がある。



写真①、4つのグループの代表のうち一人だけが 27,700 円となってしまった。感心するのは提供した仲間と、一切解説せず躊躇なく全員にもどした授業者である。

この後、数名の仲間が間違いの原因を指摘し訂正されていった。間違えた女の子も納得であった。授業者からは一言「これでいい!」・・・ナイス!

[深い思考の現れ] 夢中になりもがいている姿が、深く思考しているパフォーマンスではないだろうか?



「ニヒリズム」「シニシズム」 佐藤学 「学びから逃走する子どもたち」より
 ニヒリズム：虚無主義。「何を学んでも無駄さ」「何を学ぼうと、どうせ人生は変わりはないし、社会は変わりっこない」
 シニシズム：冷笑主義「ひたむきに学ぶなんて馬鹿馬鹿しい」「学ぶことの意味が分からない」「自分は馬鹿だから」、「どんな内容の知識や文化も自分には関係ない」、「世の中がどう変わろうと自分の知ったことではない」

「先生、いつも素敵な授業ありがとう。「分かりたい」「支え合う」学びの授業の一人一人が主人公に見えます。子どもも教師も「学び合う授業」から逃れきれない状況ですね。心から感謝します。

[稲田小学校他の2年、4年の学級]

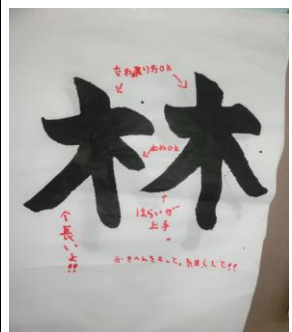
[2年生] 「学びの共同体」の旗を上げて2年目。2年生の授業風景である。このくっつき具合が最高です。算数の授業で、ペアによる協同的活動を仕組んでいます。ちょっとやんちゃで手がかかり大変だと言うがいったんペアに活動を下ろすと写真の通りである。あとは、ペアに下ろすタイミングと活動の切り上げのタイミングである。同僚と互見授業を重ね研究を深めてほしい。



[4年生] モデリング（模倣）で学ぶ 定臨の教師である。

1年間の定臨の教師と言えども子どもの学習権は保障されないといけない、ベテランの教師と同じように重責が課される。「学びって?」「なぜグループで?」同じ心境の教師たちはたくさんいる。校内研において先輩たちの授業を参観させてもらう、さらに不安が募ることもある。この壁を乗り越えないとこの子たちが来年つらい思いを知ることになる。成功も失敗もない、授業の上手い下手も言ってもらえない私なりに誠意をもって授業づくりに挑戦することのみである。謙虚な姿が美しい!

掲示された友達の仕事、出来具合のアドバイスは仲間がやってくれる。受け入れやすくなる。



現在、ぼくたちの稲田小学校では、クラスのみならず学び合う「学び合い」の授業をしています。その学び合いの授業とは、まず、先生は問題を出してその後は、ぼくたちの学び合いの様子を見ているだけです（ケアする）。僕たちは、グループの友達や他のグループの考えを聴いて問題の答えを導き出すという授業です。その学び合いの授業をやっていくうちに、インターネットで「学び合いの授業」で検索すると稲田小学校が出るようになりました。ついには、遠くインドネシアからの人も授業を見に来てくれました。僕は「学び合い」の授業は大事でいいことだと思います。なぜなら、先生の話や説明を聞いているより、みんなで学んだ方が頭によく残って（記憶が強化される）よく理解できるし、また、分からないところを先生に訊くより、友達にきく方が訊きやすいからです。ぼくは、「学び合いの授業」がたくさん広まっていったらいいと思います。
(M・N 男子)

私たちの授業は『学び合い』で進めています。「学び合い」とは、グループの仲間と一緒に考えて答えを出し、分からないことがあったらお互いにきき合い、教え合って答えを出していきます。各グループの答えがまったく合わず、どれが正しい答えか苦戦するときもあります。「学び合い」のいいところは、自分の分からないところを納得するまで教えてもらえることです。また、先生から問題が出されたら、一人で解くのではなく、グループできき合い、教え合って一つの答えを出せることです。さらにグループの答えが分かれたときも、お互いに自分たちの意見をきき合い、教え合い正しい解き方を見つけることができるということです。このように、「学び合い」は一人の力ではなく、みんなできき合い、教え合って答えを出すことができるのです。つまり、相手の分からないところ、自分の分からないところを訊き合って全員が問題を解決することができるのです。
(T・M 女子)



今、ぼくたちの学校では国語や算数の時に「学び合う授業」でやっています。「学び合い」とは、先生は、あまり何も教えてくれません。友達やグループだけでたとえ全員が分からない難しい問題でもきき合って、教え合って解答していきます。時には、1時間ずっと考えてばかりで答えが出ないときもあります。最近では、ぼくたちの「学び合いの授業」をわざわざ見に来る先生方もいます。ぼくは、普通の授業よりも、学び合いの授業の方が成績が上がると思います。なぜなら沖縄県は全国学力調査で最下位だったけど、今年24位まで順位が上がりました。だから学び合いはとっても大事だと思います。これからも学び合いで頑張って成績を上げていきたいです。
(T・T 男子)



私は、「学び合い」という授業方法は、いい授業だと思います。なぜなら、一人で悩むよりみんなで悩んだ方が、考えがたくさん出るし、自分が分からないところを相手が分かっていたりすることがあるからです。私たちが「学び合う授業」を始めたのは去年の5年生の時からです。最初のころは、「分からない」って聞くことが恥ずかしいと思ってあまり訊くことができませんでした。しかし担任の〇〇先生が、「分からない人がえらいんだよ」とお話してくれたので、それからは、「分からない」時にはどんどん友達に訊くことができるようになりました。そのおかげで、授業では「分からないこと」が減るようになりました。学び合いは算数だけでなく国語や理科、社会なんかのほかの授業でもできます。なので、これからは「学び合い」をいっぱいして、成績を伸ばしていきたいです。
(H・T 女子)



ぼくは、「学び合う授業」をやるようになって成績が上がったと思います。理由は、ぼくたちの授業では、「ここ、どんなしてやるべ〜」とか「何でその答になったの?」とか、友達に訊くと教えてくれるからです。先生だと訊きづらいが、友達だと気軽に訊けるのでいいと思います。最近では、わざわざぼくたちの授業を見るためにインドネシアから来た人たちもいました。算数以外の国語や社会科の時間も「学び合う授業」でやっています。…略…
だからぼくは、これからも「学び合う授業」を続けていきたいと思っています。
(K・T 男子)

私たちの学校では、「学び合う授業」をやっています。最初のころは、どうやって学び合うか分からなかったけど、やっていくうちに先生に言われなくてもグループや友達と自然に「学び合う」ようになっていました。学び合いの良いところは、自分が分からないとき、友達に訊いたり、分かるグループに行き、色々な考えを共有することでたくさんの解決方法や、やり方を分かるようになります。しかし、学び合いでは、自分が訊くだけでなく、友達に訊かれたら自分のやり方を相手が分かるまで教えてあげなければいけません。相手が「あ～ そうやってやるのか。」とか「わかった ありがとう。」と言ってもらえるのが学び合いだと思います。(U・M 女子)

私たち学校では「学び合う授業」という活動を取り入れています。「学び合う授業」とは、先生が出した問題をみんなで学び合いながら答えを出すという授業です。最初は、私も、ほとんどの友達が「学び合い」というのが分かりませんでした。でも、何回もやるにつれて楽しくなってきたし、学び合いの良いところを見つけることができました。学び合いの良いところは2つあります。1つめは、みんなで考えを出し合っけきき合うので、みんなが答えと解き方を詳しく分かるということです。2つめは、みんなできき合い、考えることによっていろんな解き方を覚えて成績が上がることです。…略…

「学び合う授業」は、よい学習活動だと思います。この学習の仕方が沖縄県全部の小学校に広がってほしいです。これからもみんなで「学び合う授業」を続けていきたいと思います。(S・A 女子)

ぼくたちの学校は、国語や算数で「学び合う授業」をしています。例えば算数の授業で問題が出された時、分からなければ、「教えて～」とか「ここどうするの?」とか分かる人にききに行きます。

…略… 沖縄県は今年の全国学力調査で24位になりました。ぼくはこれは「学び合う授業」のおかげだと思います。この学び合いがもっとたくさん広がればもっと上位になれると思います。ぼくは、「学び合う授業」は楽しいし、成績も上がるのでいいと思います。(O・Y 男子)



ぼくは、いつも算数の時間に「学び合う授業」をしています。先生は答えを教えてくださいないので、自分たちで解いていくというのをやっています。…略… 難しい問題をみんなで考えてみんなで悩んで、いろんな考えを出して、「ちがうよ こうだよ!」「いいか ここ見て」「そうそうそれからこうするの」とかいろんなことをしゃべって解きます。…略… ぼくは、今まで、授業で手を挙げることはできなかったけど学び合う授業になって「はい!」と言えるようになりました。(K・K 男子)

稲田小では「学び合う授業」という授業があります。「ここ解ける?」「ううん、まだ。」という風に学級、またはグループのみんなで話し合い、学びながら問題を解いてきます。もちろん先生は入りません。難しい問題を出して解いてきた人たちに○か×をつけています。でも、私はこの学び合いの授業で成績が上昇しました。それに人間関係も深まりました。それには自分自身がとっても驚いています。だから、私は「学び合う授業」は、楽しいし、成績も上がるのでうれしいです。…略…(T・K 女子)

今、ぼくたちの学校では「学び合う授業」をやっています。「学び合い」というのは、分からないところを友達と一緒に考えて答えを解くものです。ぼくは学び合いはとってもいいなあと思っています。なぜならば、学び合いをすることによって分からなかった問題が分かるようになるからです。…略…

算数の問題でとても難しい問題が出ました。誰もわかりません。だけど、みんなできき合っけて考えていくうちにやっと問題が解けました。ぼくはとてもうれしかったです。(N・M 男子)

(注)・文章は子どもの意思を考慮し、一部訂正しています。(ほとんど原文です)

・(…略…)は文章を省略しています。

・「訊く」「聴く」「きき合う」については、意図をもって使い分けています。

「訊く」…分からないことを友達に訊く。

「聴く」…相手の考えを、しっかり誠意をもって(分かってあげる気持ち)で聴いてあげる。

「きき合う」…「訊く」「聴く」が対話として成立している時。

稲田小学校6年生の国語の授業における作文です。テーマを「学び合いの授業」にしたところ、このような子ども達の声が聴くことができました。2名、記載できないのがありました。文意はほぼ一緒です。

さて、皆さんどう思います。・・・担任は「書かせたんじゃないか?」と疑われることを心配していました。疑うやつは気にするな。真実を知っているのが、私たちと子ども達だけでも十分です。

国頭学びの会ゆい